



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1208回 例会 2014.11.28(金)曇

司会:岡 良森君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島
TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

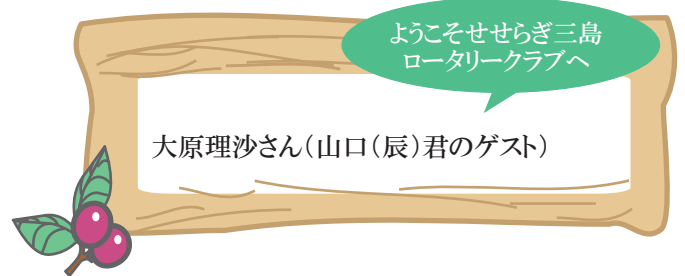
会長 矢岸貞夫君

先週の例会は休会でしたので、今日は11月15日～16日に行われた第2620地区2014～2015年度地区大会の報告をさせていただきます。

15日は、会長、地区委員長会議が13:30から開会点鐘で始まりRI森島庸(つね)吉(よし)会長代理の話しがありました。「ロータリーに輝きを」について、ロータリーが輝くためには、まず身近な所から私たち会員同士が自分を磨きあげ魅力あるクラブ創りから仲間の会員を増やし、例会を人生の道場と心得、卒業のない生涯学級として学びを教えられますことは、言うまでもなくご当地が育んだ米山梅吉先生の教えと云っています。では、私たちは何故ロータリーを続けているのでしょうか。それは、ロータリーが楽しいからであり、人生や仕事の役にたつからではないでしょうか、ロータリーは一人ひとりが思いやりの心をもって「他人の立場にたって物を考え、他にお役に立つ」ような行動をしようとする善意に満ちた人々の集まりで、人はそれぞれの立場があり、意見が異なるのは当たり前で、ロータリーは多様性、相互理解、寛容の心で違いを認めあう事を学ぶ場でもあり、ロータリーに溶け込み、親睦の輪を広げ、終生の友とめぐり合いあい、深めることは楽しい限りで、人生の学校には卒業は無い、健康が許す限りロータリーを辞めず、ロータリーを輝かせましょう。また、16日は本会議点鐘で始まりプログラム通り進められ12:30閉会点鐘その後例年では昼食を挟んで、午後から後援会、懇親会となり終了でしたが、今年の大会は昼食がなく14:00から始まる懇親会までの間はジャズ演奏、ベリーダンス、大道芸などがあり大懇親会が行われて閉会となりました。交流会の間にクラブ研修リーダーセミナーが同時に開催され鈴木政則君が出席され内容については、例会内で報告があると思います。次年度以降は、クラブ研修リーダーはクラブの副会長に兼務してもらうのが良いのではないかというような意見もあったようです。私を含めて10名で参加しましたが皆さん早朝から反省会まで一日ご苦労さまでした。

また、23日、24日のタイ放置自転車贈呈については、国際奉仕委員長から報告があると思います。参加されたクラブの皆さん、河口湖ロータリークラブの皆さん大変ご苦

労さまでした。この放置自転車の事業は我がクラブの柱でもあります、まだまだ自転車が足りず、子供たちの為にも続けてやりたいと思います。
どうぞ、宜しくお願いいたします。



おめでとう

会員誕生日 11月28日 久保栄子君

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	28/36	77.78%	35/36	97.22%
今回	25/36	69.44%	会員総数	37名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

内田君、遠藤君、大房君、小島君、根津君、兵藤君、宮澤君、山口(雅)君、山田君、米山君、渡邊君

今日の料理



卓話

大原里沙さん(三島信用金庫法人サポート課)



せせらぎ三島ロータリークラブ

2014年度 タイ放置自転車贈呈事業について

1. 概要

催 事 名: 第103回 タイ放置自転車贈呈式典

開催日時: 2014年11月24日 10:00~11:00

会 場: Chiang mai international Convention and Exhibition Center

参 加 者: 在チェンマイ日本国総領事 藤井昭彦氏、
チェンマイ県副知事、タイ国内学校の生徒、
せせらぎ三島RC(17名)、河口湖RC(10名)、
バンコクスリウォンRC、チェンマイ北RC

贈呈自転車数: 450台(2003年開始時より当クラブから
累計5,400台)

2. 事業紹介

2014年11月24日、せせらぎ三島ロータリークラブ(以下せせらぎ三島)はタイ国チェンマイ県にて、第103回タイ放置自転車贈呈式典に参加した。当日は晴天に恵まれ、南国の暖かい気候の中、「タイ国の子供達に日本の放置自転車450台を寄贈した」とせせらぎ三島の矢岸貞夫会長より挨拶ならびに報告があった。式典には在チェンマイ日本国総領事の藤井昭彦氏とチェンマイ県副知事も出席し、挨拶の中で「このプロジェクトは素晴らしい」「学校に行くまでが便利になった」と感謝の言葉が述べられた。

この事業は今年で12回目を迎える。事のきっかけは、2003年に当時の国際ロータリー会長のビチャイ・ラタクル氏(タイ、バンコク、トンプリ・ロータリー・クラブのチャーター・メンバーで、タイ国の外務大臣、副首相を歴任)とバンコクスリウォンロータリークラブ(以下スリウォン)のメンバーが駿東郡長泉町にある米山梅吉記念館を訪問し、その際に東レ研修センターで行われていた静岡第2分区分のIM(インターシティー・ミーティング)を訪れたことだ。そこでタイ国への放置自転車贈呈事業の話があがった。

タイ国内の中・高等学校数は約 13,500 校あり、これらの学校に通う生徒数は約400 万人にのぼるが、多くの学生は炎天下、遠距離の徒歩通学の状況にあった。このような過酷な通学環境を少しでも緩和するため、通学の手助けとなる支援として、スリウォンは日本の放置自転車をタイ国内の学校に贈呈し、遠距離通学をしている学生に対

し学校を通じて貸し出す活動を始めていた。せせらぎ三島では、その事業への協力・支援ができないかとの思いから、IMの1か月後には5人のメンバーがスリウォンを訪問し事業について見識を深め、同年10月には第1回目の贈呈を実施した。以降せせらぎ三島では毎年約450台を、今年の自転車贈呈式(同クラブでは12回目、事業全体では103回目)で累計5,400台(事業全体での累計46,000台余)の自転車をタイ国に寄贈している。

タイ国の経済発展は目覚ましく生活レベルも向上し、せせらぎ三島でも時代の変革に併せ今すべきこと・出来ることを改めて思索する時期を迎えている。しかし、現地では「まだまだ自転車が足りない」との声も聞かれる。せせらぎ三島の会員達は「この自転車が子供たちの足となり生活環境の改善に、ひいてはタイ国の地域社会の発展の一助となり、日本とタイ国の友好が末永く続くことを願う」との思いだ。

●バンコクスリウォンロータリークラブについて

クラブ名: バンコクスリウォンロータリークラブ

会員数: 約20名

特 徴: タイ国で唯一、日本語で例会が運営されるロータリークラブ。メンバーは在タイ日本人と日本語を話すタイ人で構成され、タイ地方都市ヘリサイクル自転車、図書、浄水器の贈呈事業を行う。

HP : <http://suriwongrc.blogspot.jp/>

2014年度 タイ放置自転車贈呈式典をおえて

国際奉仕委員長 山口雅弘君

11月24日にチェンマイにて今年度の、放置自転車贈呈式典が行われました。前日には藤井総領事のお心遣いにより総領事館にもお招きいただきました。

式典はせせらぎ三島、河口湖、スリウォン、チェンマイノースの合同で多くのロータリアンや関係者、現地の子供たちと慎ましやかにとり行われました。せせらぎ三島17名、河口湖10名と日本から多くの参加者やクラブのご理解とご協力より通算12回目を無事終了いたしました。現地の自転車贈呈式典の責任者の方から、チェンマイ空港で貴重なお話を伺うことが出来ました。贈られてきた自転車はチェンマイとチェンライに交互に贈呈されこども達に非常に役立っている。日本の大震災から2000台減っている。日本の状況を理解し、その中でも支援を頂いていることに深く感謝しておられました。今後の継続を是非にと強く要望されておりました。チェンマイではパーツごとにバラバラになった自転車を子供たち自らが心を込めて組み立て利用していました。多くの支援を待っている子供たちがいる事を改めて知ることが出来ました。

地区大会に参加して

鈴木政則君

11月16日グランドホテル浜松にて盛大に地区大会が開催されました。

私は中村先生の代理としてクラブ研修リーダーの会議に参加させて頂きました。積バスターガバナーが座長となり、クラブ研修リーダーの立場について講話をして下さいました。

副会長がクラブ研修リーダーの委員長となり、若いロータリーアンを指導育成して地区の役員に推薦してほしいとのことでした。

ROTARY NEWS

2014年11月、ニューヨークの国連本部で、69年間におよぶロータリーと国連のパートナーシップを記念する「ロータリーデー」の特別行事が行われました。両団体は、世界平和を目的として、1945年の終戦後に協力を開始。その後もパートナーシップを拡大し、今日、性差別、母子の健康、疾病予防と治療などの分野で協力活動を行っています。

国連ミレニアム開発目標は、2015年までの目標達成をめざしています。しかし世界には、極度の貧困(1日1.25ドル以下の生活)を強いられている人びとが12億人いるとされます。このため国連は、目標のレベルを引き上げ、2030年までに極度の貧困問題に取り組むための準備を進めていると、ポスト2015年開発アジェンダ担当のアミナ J. モハメド氏は話します。

「世界には課題に取り組むためのリソースがあるのだから、私たちはその活用方法を確立しなければならない」とモハメド氏。それだけに、ビジョンを共にする団体が力強いパートナーシップを築き、極度の貧困問題に取り組むことの重要性を強調します。また、そのようなパートナーシップの好例として、ロータリーとパートナー団体によるポリオ撲滅活動に言及しました。

ロータリー側から出席したジョン・ケニー財団管理委員長は、これを受けて、「私たちは根気強く取り組み、課題を克服しながら前進を続け、決してあきらめない」と、堅い意志を表明しました。

ユニセフの主要保健顧問であるニーナ・シュワルビー氏は、ポリオとの闘いで培われた“接触者追跡”(感染者が接触した人の特定と追跡)のスキルが、昨今のエボラ出血熱への対応をはじめとする「グローバル保健の進歩のカギを握るモデルである」と述べました。実例として、ナイジェリアでは、エボラ感染の流行を食い止める主な手段として、ポリオ撲滅活動で導入された追跡方法が応用されています。



スマイルボックス

鈴木真知子君：地区大会出席させて頂きありがとうございました。

兼子悦三君：11月25日のチェンマイ中古自動車贈呈式に無事行って来ました。全員無事で帰国できました。ご苦労様でした。

土屋 巧君：タイ自転車贈呈式に行ってみりました。向こうではずっと天気も良く、旅行としても大変充実しておりました。矢岸会長、山口雅弘さん、小林さん、兵藤さん、皆さん大変お世話になりました。ありがとうございます。

小林 勝君：タイ自転車贈呈式行って来ました。参加した皆様、ご苦労様でした。

澤田 稔君：矢岸会長・山口国際委員長、その他参加の皆様のおかげで藤井総領事・副知事参加のもとに自転車贈呈式が立派に開催され、まことにおめでとうございます。

久保栄子君：久しぶりのロータリー、ドキドキします。他の事でドキドキしたいなー！

田中錦城君：ほほ笑みの国から無事帰国しました。貴重な経験出来ました。

服部光弥君：本日14:00から大房正治市議会議員の一般質問があります。お時間のある方はぜひとも傍聴に行きましょう。

PHOTO GALLERY

